



発行者 等々力地区身近なまちづくり推進協議会 広報部会
事務局 等々力まちづくりセンター
TEL. 03-3702-2143
FAX. 03-3702-1165

2025 元旦



あけまして おめでとうございます

「玉の清流」編集委員一同

令和七年 乙巳の年



玉の清流創刊から42年目となる令和7年の新年が明けました。
本年は十二支でいうと「巳（へび）」年、十干では「乙（きのと）」の年となり干支は「乙巳」です。

困難も紆余曲折しながら進む、しなやかに伸びる草木を表して「巳」を象徴する動物、蛇の姿から「再生と変化」を表し、脱皮し強く成長する「不老長寿」を象徴する動物、神の使

玉川小学校ありがとう！ 150周年おめでとう！

元PTA会長 伊澤恵味子

令和6年11月20日に世田谷区立玉川小学校は創立150周年を迎えました。明治7年（1874年）に西光寺を学校として創立され、大正6年に現在の校地に移った、区内では3番目に古い歴史のある小学校です。



祝い神輿

社の子ども神輿4基が校庭に大集合、子ども達にぎやかに担ぎました。4基のお神輿が勢ぞろいした様子は、それはそれは神々しいものでした。子ども達も素晴らしい経験ができたと思います。

記念運動会ではいつもに増して華やかな子ども達の歓声があがり、展覧会では、玉川の誕生日を祝って様々な力作が校内いたるところに展示されました。
10月には、100周年記念で埋めたタイムカプセルを掘り起こすというイベントが行われ、180名を超す卒業生が50年前の自分に会いに訪れました。



50年前のタイムカプセルを開けました

無事掘り起こされた時には歓声があがり、体育館がなつかしい雰囲気一杯になりました。
また、同月、等々力玉川神社、町の天祖神社、上野毛稲荷神社、野毛六所神社、

そして、迎えた記念式典と祝賀会。世田谷区長を始め、区議会の皆様、近隣地域の皆様、歴代校長先生や旧教員の方々、歴代PTA会長、区内小学校の校長先生やPTAの皆様など、玉小に縁ある大勢の方々が一堂に会し、盛大に執り行われました。
なかでも、長い長い時間、変わらぬ愛情をもって子ども達を守り育ててくださった、玉会の皆様方が多く出席され記念品の贈呈と共に周年をお祝いしました。
この、卒業生で組織された「攻玉会」、攻玉は中国最古の詩集「詩経」の中にある「他山の石、以て玉を攻むべし」からとった言葉です。よそ



150周年記念式典（2024年11月16日）

起のよさを表しているといえます。さて、現在も世界のどこかで戦争が起きています。ロシアのウクライナ侵攻は続いていて、核兵器の使用をちらつかせている状況下にあります。けれど、連日流れていたこの報道も、時が経つにつれ少なくなりつつあり、把握できないほど死者が出ているのに、人が死ぬこととの引き換えに「平和」を手に入れようとする為政者の身勝手さやパレスチナの間で起きている悲惨

もう一つの玉川小学校

「等々力」や「尾山台」に比べて、「玉川」は日本中にたくさんあることがネット検索でわかる。もともと、等々力地区は古くは玉川村の中にあつたわけで、それがゆえに玉川小学校、玉川中学校、玉川高校（2008年閉校）と三拍子揃って、地域名を校名に冠している。

さて、それほど珍しくない「玉川小学校」であるが、この名前の学校が、すぐ近くにあることをご存じだろうか。多摩川の川向う、川崎市平間にその学校はあつた。府中街道を走るバスに乗っていて、平間に近いガス橋の近くを通ったとき、小さな信号の標識のところに「玉川小学校」という名前が出ていた。おやここにも「玉川小学校」があるのかと思つて、その信号のそばの学校の案内板を見て驚いた。「玉川小学校」は、実は「ぎよくせんしょうがっこう」という名前

等々力の歴史を語り継ぐ会の写真紹介



玉川小学校は150歳

玉川小学校昭和36年当時

今

昔

の山から出たつまらない石でも、自分の玉を磨くのに役立てることができるといふ意味で、世間のつまらないことや人の言葉からでも自分を磨くことができるというたとえに使われています。

今年度、玉川小学校は150周年という節目を迎えました。この先も未来に向け、多くの子ども達が巣立っていく玉川小学校を暖かく見守っていただきますようお願い申し上げます。



150周年運動会

な出来事にも心の底が苦しくなる思いです。そのような中で日本被団協がノーベル平和賞を受賞したニュースは私たちに希望を呼び戻す出来事でした。何事にも新年の晴れ晴れとした気持ちで歩んでいきましょう。さて、編集委員一同は改めて創刊の初志に立ち、地域に愛され、役立つ紙面作りに努めようと気持ちを新たにしています。
地域の読者の皆さんも、お気軽にご意見、ご投稿をお寄せ下さいませようお願いします。

であることが書いてあったのだ。

なぜこのような読み方をしているのだろうか？学校の案内をネットで調べると次のような説明があつた。
創立当時、新しい学校名を決める際に「玉川」という名前が候補に挙がったが、すでに対岸に「玉川小学校」があつたため、村会議で地域の人々が愛着を持つ「玉川」という地名だけを残し、あえて「ぎよくせん」と読むようにした、と言われている。

成程、等々力の「玉川小学校」は創立が明治7年、川崎のは明治41年と、34年の先輩に対して遠慮したというわけだ。

玉川をぎよくせんと呼ぶもうひとつの例を最近みつけた。二子玉川のそばの玉川大師に行くと、そこには玉川院と書いてあつて、この読み方は「ぎよくせんいん」と書いてあつた。

ちなみに、ぎよくせんというのをネットで引くと「玉泉」で、こちらはセレモニー関連の施設名で、もしかしたら「たまいずみ」と読むものもあるかもしれませんね？（高橋裕二）

これからの行事

- ◆上原せいとの晩 1月19日(日) 上原睦会神輿庫前
◆古着・古布の回収 等々力地区町会連合会 2月16日(日) 尾山台中学校 等々力小学校
◆普通救命講習会 身近まち生活環境部会 3月1日(土) 玉川せせらぎホール集会所
◆歩こう会 身近まち健康づくり部会 4月5日(土) コース未定

編集後記

昨年地域の皆様を支えられ、無事に一年の発行を続けることができました。振り返れば、地域イベントの再開や新たなプロジェクトの始動など、日常が少しずつ戻り始めた年でした。
一方、昨年は元旦から能登半島地震に始まり、日本各地で豪雨被害が頻発しており、またかつてないほどの猛暑に襲われ、私たちの生活に大きく影響を及ぼしています。世界に目を向ければ戦争は終結の兆しも見えず、経済も益々格差が広がっている状況です。
このような世の中ですが「玉の清流」は地域の中で頑張っている人、生き生きと活動している団体等にスポットを当て、皆様にお伝えできればと思います。どうぞ本年もよろしくお願ひいたします。 兼子 成昭